



Bluehouse (成城 T 邸) 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

傾斜地

写真は、このたび成城に竣工した住宅です。緑の木々に囲まれた建物の裏側は傾斜地で、少し離れたところに桜並木のある小さな川も流れています。

建て主は、「普通の土地では面白くない」と、傾斜地ばかりを探されたそうです。念願の土地を手に入れられ、傾斜地建物の設計者として実績の多い、中村晃氏の事務所を訪れました。

研究職のお仕事のかたわら、ご自身も趣味でロボット製作をされるという建て主はものづくりの楽しさをよくご存知です。「ロボットは、電気、機械、物理、化学など、あらゆる分野の知識を総動員して、ゼロから作り上げる楽しみがあります。それが自分にとっては、とてもいい気分転換です」ということです。

傾斜地には平坦地にはない魅力があります。景観の良さ、上下の移動により、変化のある空間を楽しめるなどなど。この建物にも、建て主のこだわりのスペースがたくさんありました。しかし、なんといっても、「傾斜地でこんなに開放的なスペースが確保できるとは思わなかった」というお言葉が印象的でした。

一方で、傾斜地は地震や水害の影響を受けやすいので、十二分に調査と対策を行う必要があります。その場所の土壌の種類や昔からある岩盤なのか、造成地なのか、擁壁の工法も十分見極めないと、安いからと購入したものの、後々の基礎のための土工費、建築費用を算出できないということでは、買わない方が身のためです。

「FrontLine」のコーナーでは、設計の中村氏が阪神大震災の復

興プロジェクトの傾斜地研究のために、イタリアの山岳都市をたくさん訪れたという話を伺いました。アルペロベッロやシエナ、アッシジなどは耳にしたことがありましたが、調べると他にもたくさん山岳都市があるものです。山の頂上には教会がある場所が多く、宗教と切っても切れない、ヨーロッパの暮らしが反映されています。

アジアでは、台湾の九份を思い出します。元金鉱の山間の街は閉山とともに廃れていましたが、映画のロケ地として脚光を浴びてから、レトロな建物や江ノ島のような店が連なる坂道が観光名所となり、映画「千と千尋の神隠し」のモデルと言われて日本人も多く訪れるようになりました。頂上近くの「九份茶房」の天空庭園からの眺めは最高です。

山の多い日本でももちろん傾斜地に建物が建っている地域があります。昨年芸術祭が行われた瀬戸内海の島々にも、その地域特有の山の暮らしがありました。海岸線の際まで山が迫っている男木島では、迷路のように繋がる坂道を登るために、おばあさんたちは乳母車（オンバグルマ）を使って歩いて荷物を運びました。体力勝負の暮らしです。山の壁面に祠を掘っている地域も少なくありません。山には神が宿っているという信仰があり、日本全国を見渡しても、神社仏閣は、山にあることが多いのです。

傾斜地は、「山」に対する概念を新たに思い起こさせてくれます。私たちが日頃忘れていた、自然に対する畏敬の念や感謝の気持ちといつてもいいかもしれません。人間には太刀打ちできない力というものがある、ということ。

Bluehouse (成城T邸)

緑に囲まれた、傾斜地住宅

建て主は成城の傾斜地にこだわって敷地を求められ、傾斜地建物の設計実績が多く、やはり近くの傾斜地に建つ、当事務所兼自宅を尋ねてくださった。

成城という、上品でクラシカルな住宅が整然と並ぶ街には、レンガなど緑になじむ外観の選択もあるが、敷地はバス通りから入った道の一番奥の交差点に位置する。シンプルでありながら、街の新しいアイスポットとなるような新しいデザインの提案を試みた。ブルーという、緑とは一見相容れないような大胆な色の壁を前面に設けてはいるが、周囲にも違和感なく、しかし、個性的な建物として認知されているようである。

敷地はかなりの急勾配であった。既存の建物を壊し、そのまま基礎を生かしてプランを組み立てていった。各フロアの開口部はそこから見える木を意識している。傾斜地工事に際して、「木を残す」ということは、環境に対する考えがないと、なかなか普通の施工会社ではやらない。往々にして地面を平らにする方向で植栽はすべてカットすることが多いが、今回は施工経験のある辰でよく対応してもらったと思う。

室内は、白色を基調にしているが、例えばプライベートスペースとなる1階には、ブルー、オレンジをワンポイントに入れるなど、随所に変化をもたせている。

また開放的な浴室の外のデッキの先には、斜めの壁が続いているなど、扇形の敷地に建物の形を自在に配置してユニークなスペースが生まれている。

ご要望を伺い提案するたびに、建て主も新たに案を考えて来られる、という往復作業が続き、結局 20 案近くのスタディを行った。その結果、建ちあがった建物には、建て主自身も十分ご満足いただけたようだ。

外構工事は、これからである。眼下に広がる、緑、桜並木を大いに楽しんでいただければ、と思う。

(中村晃氏 談)



① 2階のメインリビングダイニング。右側の屋上への階段に設けられた金物の手すりは角度を次第に変えて視線に広がりを持たせている② 2階の室内テラス。鉄製の柱をガラスでくるんだ収まりは現場に入ってからアイデア。サッシの剛性を和らげ、景色を生かす③ 2階エントランス脇の丸いくつろぎスペース。じゅうたんの厚みや穴の深さが絶妙④ 1階浴室⑤ 屋上と塔屋。道路からも視線が遮られてのびのびとくつろげる⑥ 1階への階段⑦ 内側からみた2階エントラス。隣家の植栽が美しく、左側からの透過光が明るいスペースを生み出す

所在地：世田谷区
 構造：RC造
 規模：地上2階
 用途：専用住宅
 設計：中村晃 / アーキプラス
 竣工：2011年7月
 施工担当：常田
 撮影：アック東京 (⑥を除く)
 ⑥のみ中村氏



岡本の家（中村氏の事務所兼住宅）

Akira Nakamura



中村 晃氏 /アーキプラス一級建築士事務所

撮影：アック東京

今月は、「Bluehouse」の設計者、中村晃氏に、傾斜地の設計について伺います。事務所兼ご自宅は、やはり傾斜地に建つ建物で弊社が施工させていただいた混構造の住宅です。（2002年「岡本の家」）

—中村さんが、傾斜地の設計に興味をもたれたのはどういうきっかけからですか。

中村：大学の建築学科に入って、これはすごいと思ったのが、フランク・ロイド・ライトの「落水荘」です。それからケーススタディハウスにあこがれるようになりましたね。（編集注：特に #21,#22などは、建設不可能と見える険しい立地の上に建っている）

卒業後建設会社に入ってからそんなことも忘れていたのですが、転機は阪神大震災です。神戸のT学園の再開発を会社で受けることになって、僕は手を上げた。震災で高台の大学の下の住宅街が壊滅状態になりました。その土地を大学が買い上げて始まった復興プロジェクトです。厳しい崖で、やる気とともに怖いとも感じました。その頃からイタリアの山岳都市を何回も訪れ研究しました。とにかく空間が面白い。上ったり下ったりする楽しさ、思いがけない場所に出会える楽しさ。それらは設計者がつくったのではなく、自然に発生していった有機的な空間でした。

この神戸のT学園では、平なところは一番上の敷地のコモンスペース 1 箇所だけで、イタリアの山岳都市にならひ、斜面地に沿って新たにロビー、アリーナや教室、階段などを配しました。設計に約 3 年かかり、2001 年にできたのですが、その後、傾斜地に自分でも自宅兼事務所を建てることにしました。

独立に際して、自分は「傾斜地の設計」を得意分野にし、最初に設計した「段床の家」は、「2009 年グッドデザイン賞」を受賞しました。以来、今回で傾斜地の設計は 8 件目になります。

しかし傾斜地の設計は、階段などの動線もあり、やはり大変です。湿気的面も気を配らないといけません。空気の流れや換気に配慮したプランが必要です。もちろん構造計算は難しい。通常の耐震性の 1.5 倍で計算します。最近は大いぶ読めるようになりましたが、最初の頃は予算を立てるのが大変でした。懇意の構造の先生は 2 人いますが、頭の柔らかい先生達です。普通の先生はなかなかやりたがりません。それだけに遣り甲斐があります。

「傾斜地の魅力を十分理解いただける方に 住んでいただきたいと思います」

中村 晃

株式会社アーキプラス 代表取締役

1957年 東京都生まれ

1981年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
戸田建設入社

2007年 同社退社

アーキプラス一級建築士事務所設立

ただ、コストの面から、「お金がないので、斜面地を選びました」と言われるお客様は断っています。最近、「土地が安いので、建物も安く建ちませんか」という方が多いですね。莫大な造成工事が必要なケースばかりではありませんが、その傾斜地に魅力を感じてもらうのであれば、意味がないです。文化によって違いますが、欧米では、高い所に富裕層が住むのです。アラブ世界では逆に貧困層ですが、日本では、「山」というのが恐れ多い場所なので。 「神性」があるから、「山に住宅を建てる」というのは、昔は抵抗があったでしょう。だから、僕は海外に情報を求めていったわけですが、山は緑があるし、景観は捨てがたい。いつも思っているのですが、大抵の施工者は平らに造成するという頭しかないんですよ。僕は、緑を基本的に破壊するのは嫌いで、なるべく残すことを考えます。ヨーロッパでもそうですが、山全体を壊すのではなく、建物が山に連なり、なじんでくれて、その建物があることでいい風景になることが理想です。

また、傾斜地に住むことは、上下運動があるので不便です。「体力はいるけれど、不便さに変えてもそこがいい」と理解されていないと無理です。お客さんの中にはだんだん心配になってきたと言った方がたまにいらっしゃいますが、それならもうあきらめてもらった方がいいんです。逆にヨーロッパは、お年寄り結構歩いている。体力維持にいい。生活圈の中でそれが当たり前なのです。

—この春の東日本大震災で津波被害を受けた地域では、高台への住宅の移動などの復興プロジェクトも出されています。

中村：地震・津波・台風などの自然災害や、それに続く火事で被害を受けやすいのは木造の建物です。日本という災害国ではいよいよ住宅のコンクリート化が必要だと感じています。津波が来てもコンクリートの住宅は残りました。震災復興で高台に住むということもひとつの解決策ですが、平地に住みたい方でも、まず土台をしっかりとして、コンクリート造にすることが大事だと思えます。避難システムは別に考え、ルートを確保して逃げれば戻ってこられます。仕上げ材はだめになっても、また住めます。一般の方はまだ、「え、コンクリート造の住宅ですか」と言う人がほとんどです。住宅のコンクリート化をどんどん進めるべきですね。—本日はどうもありがとうございました。

ご自宅兼事務所にて。開口部に広がる豊かな緑をバックに現在施工中の模型を見せていただきました。エアコン不要のひんやりとした空気が心地よい空間です。



コンクリート造のリフォームに特化した営業を開始しました。

9月1日は防災の日。8月末から、約1週間、日本を襲った台風12号により、各地に甚大な被害が発生しました。改めて日本は、自然災害の多い国だと感じさせられます。また過去のデータからも、首都圏ではいつ大きな地震が来るかわからない状況です。木造の建物よりは、やはりコンクリート造の建物の方が耐震性、耐火性に優れています。都心で新しく家を建てるならば、やはりコンクリート造をお勧めしたいものです。

日本でコンクリート住宅が増えてきたのは、第二次大戦後。戦後の日本経済は、コンクリートの進歩とともに発展してきました。建築技術の進歩により、従来では考えられなかったデザインのものも可能となっています。

しかし、設備や仕上げ材には寿命があり、やはり適切な時期に、適切なメンテナンスが必要不可欠です。都内でも、かなり古びたコンクリートのビルが見かけられますが、身の回りの建物を、もう一度点検されてはいかがでしょうか。特に、集合住宅や店舗・オフィスビルなどでは、危険回避のため外壁のリフォームが欠かせません。断熱性を高め、防汚性、耐久性に優れた塗料も出ております。

マンションの内装リフォームなどにおいても、間取りの変更や仕切りの追加、撤去など、コンクリートの新築工事を行う施工会社としての豊富なノウハウを実感していただけるものと存じます。

同封のパンフレットをご覧ください、また、お知り合いなどいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただければ幸いです。

ご連絡は、お客様の弊社担当者までよろしくお願いたします。



パンフレットを同封させていただきます。どうぞご覧ください。

「Muto-Project新築工事」 地鎮祭 8月11日



東中野で昭和初期から続いてきた診療所併用住宅の建て替え工事です。

構造：WRC造（壁式コンクリート造）
規模：地上3階
用途：診療所併用住宅
設計：石毛満/m.ISHIGE 都市デザイン研究所
完成予定：2012年6月

「(仮称) 玉村集合住宅新築工事」 地鎮祭 8月19日



お施主様にとって思い入れの地です。そのお気持ちを大切に施工させていただきます。1階は司法書士事務所、2-3階が賃貸住戸となります。

構造：RC造
規模：地上3階
用途：共同住宅
設計：中尾実/ナカオアトリエ
完成予定：2012年2月

「(仮称) 池袋3丁目ビル 新築工事」 地鎮祭 8月19日



山手通りにほど近い閑静な住宅街に建つ、1階に料理教室がある共同住宅です。

構造：S造
規模：地上5階
用途：共同住宅
設計：佐藤成一建築設計事務所
完成予定：2011年12月

「Zefa 神宮前4丁目PJ 新築工事」 地鎮祭 8月25日



広告会社が創業10周年事業としてテナントを含む新社屋を建設します。杉板型枠の打ち放しです。

構造：RC造 規模：地上3階
用途：店舗・住宅
設計：大堀伸/ジェネラルデザイン一級建築士事務所
完成予定：2012年3月

「(仮称)神宮前6丁目計画新築工事」 地鎮祭 9月4日



キャットストリートの裏通りにコンクリート打放し3階建ての店舗・事務所ビルができます。

構造：RC造
規模：地上3階
用途：店舗・事務所
設計：溝口健二/建築設計計画
完成予定：2012年3月

編集後記

・台風の季節です。災害に強い街づくりが今こそ求められています。コンクリートの建物の重要性をあらためて思います。